

## ～弥生時代に見る渦紋～

全くもって「唐突」ですが、「渦紋マニア」？を自称する管理人が古代遺物に見る渦紋を紹介します。

ただただ「(\*^-^)ふ~ん」と眺めて頂ければ幸いです（笑）

外縁付鉢 2式銅鐸  
J-802

三重県鈴鹿市磯山町出土 | 弥生時代(中期)・前2～前1世紀  
青銅製



@東京国立博物館



連続渦紋の書き方に  
よる双頭渦紋



当時の人々の目には妖しく  
映ったのでは？

©2026 吉備鳥瞰 All Rights Reserved

一方通行？渦紋の書  
き方による双頭渦紋





扁平鈕式銅鐸  
伝香川県出土

弥生時代(中期)・前2~前1世紀

Bronze Bell (*Dōtaku*)

扁平鈕式銅鐸/ 편평유식 청동방울

Reportedly found in Kagawa Prefecture  
Yayoi period, 2nd-1st century BC

J-37433

本銅鐸の身の区間内には、魚をついばむ鳥やイノシシ狩る様子など生活の風景が描かれてています。杅で臼をつく人物や梯子が掛けられた高床建物の表現より、銅鐸は農耕祭祀と深い関わりをもった祭器であると考えられています。



@東京国立博物館

突線鈕3式銅鐸

三重県津市高茶屋小森町字四ツ野出土

弥生時代(後期)・1~3世紀

Bronze Bell (*Dōtaku*)

凸線鈕3式銅鐸/돌선 유3식 청동방울

Found in Tsu City, Mie  
Yayoi period, 1st-3rd century

J-39038

本銅鐸は弥生時代後期の集落跡から土木工事中に偶然発見されました。掘削によって一方の身と鰏の一部が損なわれたことと、他方の内側にのみ砂土が付着することから、鰏を上下にして埋納されていたと考えられています。集落から銅鐸が発見された極めて貴重な例です。

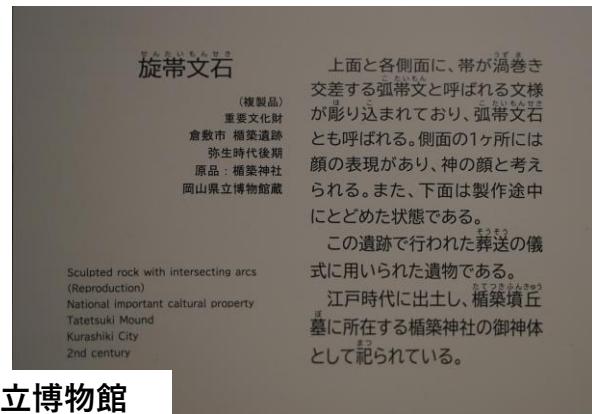
鈕に見られる双頭渦紋



@東京国立博物館

# 旋帯文石（複製） 岡山県 梱築遺跡

実物は楯築遺跡の収蔵庫（窓から見える）にあります



「渦」ではありませんが類例を見ない独特な紋です